

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成29年6月15日 (2017.6.15)

【公開番号】特開2016-37880(P2016-37880A)

【公開日】平成28年3月22日 (2016.3.22)

【年通号数】公開・登録公報2016-017

【出願番号】特願2014-160509(P2014-160509)

【国際特許分類】

F 0 2 P 9/00 (2006.01)

F 0 2 P 3/045 (2006.01)

【F I】

F 0 2 P 9/00 3 0 2 A

F 0 2 P 3/045 3 0 3 A

【手続補正書】

【提出日】平成29年4月26日 (2017.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内燃機関の燃焼室内に設けられる点火プラグを有する点火装置と、

前記点火プラグの着火性を保持するよう放電エネルギーを算出する放電エネルギー算出部と、

前記点火プラグが出力する放電エネルギーが、前記放電エネルギー算出部によって算出された放電エネルギーとなるよう制御する放電エネルギー制御部とを備えた点火制御装置において、

前記燃焼室内への吸気の湿度を検出する湿度検出部を備え、

前記放電エネルギー算出部は、前記湿度検出部によって検出された湿度を考慮して放電エネルギーを算出することを特徴とする点火制御装置。

【請求項 2】

前記湿度検出部は、前記燃焼室に空気を導入する吸気通路内の吸気の湿度を検出できる位置または外気の湿度を検出できる位置に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の点火制御装置。

【請求項 3】

前記点火装置は点火コイルを有し、

前記放電エネルギー制御部は、

前記点火コイルへの通電時間の長さおよび放電電圧の大きさのうちの少なくとも 1 つを制御することによって前記点火プラグの放電エネルギーの大きさを制御することを特徴とする請求項 1 に記載の点火制御装置。

【請求項 4】

前記湿度検出部によって検出された湿度が高くなるに従って、

前記点火コイルへの通電時間を長くするようもしくは放電電圧を大きくするように、または点火コイルへの通電時間を長くし放電電圧を大きくするように、前記点火プラグの放電エネルギーの大きさを制御することを特徴とする請求項 3 に記載の点火装置。

【請求項 5】

一つの燃焼室に対して前記点火プラグの個数を変えることを特徴とする請求項 1 に記載



の点火制御装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

本発明に係る点火制御装置は、内燃機関の燃焼室内に設けられる点火プラグを有する点火装置と、前記点火プラグの着火性を保持するよう放電エネルギーを算出する放電エネルギー算出部と、前記点火プラグが出力する放電エネルギーが、前記放電エネルギー算出部によって算出された放電エネルギーとなるよう制御する放電エネルギー制御部とを備えた点火制御装置において、前記燃焼室内への吸気の湿度を検出する湿度検出部を備え、前記放電エネルギー算出部は、前記湿度検出部によって検出された湿度を考慮して放電エネルギーを算出することを特徴とする。